

1 2 ^{りゅうげんじ} 龍眼寺 ^{ぬいど} 龜戸三丁目34番 ^{ほていそん} 布袋尊 ^{せいれんどりょう} (清廉度量)



① ^{はぎでら} 萩寺の^{はぎきゅうせき} 萩旧跡 ^{りゅうげんじ} 龍眼寺は^{おうえい} 応永2年(1395年) ^{ねん} 創立と伝えられており、
^{げんろく} 元禄6年(1693年) ^{ねん} 萩を^{はぎ} 植え込み^{はぎ} 萩の名所とりました。

^{めいわ} 明和7年(1770年)、さらに^{はぎ} 萩を^う 植えて^{はぎでら} 萩寺と^{しょう} 称せられ、^{えとしみん} 江戸市民が^{あつ} 集まり

^{ぶんじんぼっきゃく} 文人墨客が^{らいゆう} 来遊しました。^{げんざい} 現在も^{はぎ} 萩が^{しょくさい} 植栽されています。

^{えどめいしよすえ} 江戸名所図会に^{はぎでら} 萩寺の^{はぎ} 萩の^{ぜんけい} 全景が^{さしえ} 挿絵になって

^{とうさい} 登載されています。



② ^{はぎ} 萩の^{ばしょうくひ} 芭蕉句碑 ^{めいわ} 明和5年(1768年)、^{かつしかは} 葛飾派の^{みぞぐち} 溝口^{そまる} 素丸が^{はぎ} 萩の^{ばしょう} 芭蕉の^{くひ} 句碑を
^{こんりゆう} 建立しました。

・^ぬ 濡れて^い 行く^{ひと} 人も^{おかし} おかしや^{あめ} 雨の^{はぎ} 萩 ^{ばしょう} 芭蕉

また^{もんべい} 門塀にこの^く 句が^{おお} 大きく^{きざ} 刻まれていて、これは^{たからい} 宝井^{きかく} 其角の^{もんりゆう} 門流、^{ろうそどう} 老鼠堂^{えいき} 永機の^{ひっせき} 筆跡
です。

③ ^{はぎでらくひ} 萩寺句碑 ^{はぎでら} 萩寺には^{おお} 多くの^{くひ} 句碑が^{さいか} ありましたが、^{はそん} たびたびの^{さいか} 災禍のため^{はそん} 破損しました。

・^{いろ} ひと色を^{にしき} その^{はぎみでら} 錦や^{ふゆみね} 萩見寺 ^{ふゆみね} 冬嶺

・^{なつやせ} 夏瘦を^{おどろく} 驚く^{ねざめ} 秋の^{ねざめ} 寝覚かな^{ねざめ} 夢仏^{ねざめ} 庵くにか

・^{つゆ} 露の^よ 世に^{つゆ} こぼれぬ^{はぎ} 露や^{うえ} 萩の上 ^{めいじ} 市町 ^{ねんこんりゆう} 明治7年^{ねん} 建立

・^{はるさかるうめ} 春盛る^{はぎ} 梅の^{はな} うしろや^{ひやくじゆ} 萩の花 ^{ひやくじゆ} 百寿

④ ^{おちあいな} 落合^{かひ} 直文の^な 歌碑 ^な 直文は^{こくぶんがくしゃ} 国文学者であり^{かじん} 歌人であり、^{はぎ} 萩を^{あいこう} 愛好しました。

^{はぎでら} しばしば^{らいゆう} 萩寺に^{めいじ} 来遊し、^{ねん} 明治36年^{つき} 12月^{にち} 16日^{さい} 43歳で^な 亡くなりました。

^{もんてい} 門弟たちが^{たいしよ} 大正12年^{ねん} 9月、^な つぎの^な 直文の^{うた} 歌を^{きざ} 刻んだ^{かひ} 歌碑を^{こんりゆう} 建立しましたが、

せんさい せんしょう せんごさいけん
戦災のため損傷したので戦後再建されました。

はぎでら うた なか
萩寺にてよめる歌の中に

はぎでら はぎおもしろ みのおくつきとこと定めむ なおぶみ 直文 があります。

⑤ 萩寺金石文

* こうしんとう まんじ ねん (1659年) 造立の三猿の庚申塔で、江東区において最も古い
こうしんとう
庚申塔です。

* せき とう かんせい ねん (1792年) 1月、観音講中が造立した石塔があります。

⑥ 千載庵歌碑

せんざいあん かひ ぶんせい ねん (1827年) 6月、四ッ目千載庵伊成(81歳時)の歌を刻んだ
かひ
歌碑があります。

き き み しろの そめつけ はぎ
聞きしより来て見や城野のいふもさらなり染付は萩のにしきを

13 亀戸天神社 亀戸三丁目6番

① 亀戸天神創立由来 九州太宰府天満宮(福岡県)

おおとりい しょうほう ねん (1646年) 神木飛梅の
き すがわらのみちざねもくそう つく えど かんぶんがねん
木で菅原道真木像を作り、江戸にきて寛文元年
(1661年) 8月23日亀戸元神塚(亀戸五丁目)

ほこら まつ かんぶん ねん (1663年) 現在の
の祠に祀りました。

ち ださいふ こうそう とうしゃ そうりつ
地に太宰府を模して広大な当社を創立しました。

べつとうじいんあんらくじ そうりつ しょだいじゅうしょく
別当寺院安楽寺を創立し、信祐は初代住職となり

だいたいてんじんしゃ かんり めいじいしんご しんぶつぶんり
代々天神社を管理しました。明治維新後、神仏分離

により安楽寺を廃寺しました。

② 亀戸天神梅と藤の旧跡

えどじだい うめ ふじ ゆうめい しいか よまれ、
江戸時代から梅と藤が有名で、詩歌に詠まれ、

とくにふじ ひろしげ めいしょえ どひゃっけいかめいどてんじんけいだい
とくに藤は広重の「名所江戸百景 亀戸天神境内」

しゅざい めいさく
に取材されその名作とされました。

げんざい かいが みこと おおぜい かんこうきゃく
現在も開花のころは見事で、大勢の観光客が



写真提供：亀戸観光協会

おとす
訪れます。

かじんいとうさちお ふじ うた うめ けいだい ひろしげ
歌人伊藤左千夫もしばしばここで遊び、藤の歌を残しました。梅も境内にあり、広重の
めいさく とうとめいしよかめいどてんまんぐうけいだいゆき うめ ゆき なか とうしよきたがわ うめやしき
名作「東都名所亀戸天満宮境内雪」に梅が雪の中に画かれています。当社北側の梅屋敷は
え どしだい めいじまつねん ゆうめい
江戸時代から明治末年まで有名でした。



江戸名所図会 亀戸天神「二月二十五日菜種神事」
(画像提供：深川江戸資料館)



江戸名所図会 梅屋敷 (画像提供：深川江戸資料館)

③うそ替の碑 うそ替の行事の由来を記した碑が
社前 に建立されています。文政3年(1820年)
から九州太宰府天満宮に模して毎年1月24、25日
うそ替の行事がおこなわれました。前年の木製のうそ
を納め新しいうそを受けて悪いこと不幸なことをうそ
にし、善いこと幸せなことを願う行事です。



④郷土民芸うその木彫 うそ替の行事に頒布する
うその木彫は、檜材を丸型に加工し、うその鳥の形を
施し、若干色付けをした簡素、優美な郷土民芸です。
当社において、大・中・小のうそを毎年作製して頒布
しています。昨年の旧くなったうそを納め、新しいうそ
をうそ替の日に求める行事が昔からさかんです。



14 その他の名所・旧跡

(1) おいてけ堀 亀戸1丁目12番 第三亀戸中学校付近

大正三年の地図に、ここが**おいてけ堀**と記されています。しかし、JR両国駅からJR亀戸駅にかけて、その周辺に**おいてけ堀**があったと言われてます。**おいてけ堀**は、本所七不思議の一つとして知られており、若干異説はありますが、**おいてけ堀**、足洗い屋敷、片葉の芦、**竪川の送り提灯**、消えずの**行灯**、**夜更けのばかばやし**、**入江町の時なしの七つ**とされています。現在の墨田区本所方面の伝説です。

(2) 自性院 亀戸6丁目35番

市村竹之丞の墓 自性院中興の祖、安住誠阿は、寛文元年(1661)年、三代目市村竹之丞の養子となり、市村座々主、四代目市村竹之丞でありました。竹之丞は、江戸初期劇界の名優として有名でした。延宝七年(1679)年、舞台生活をやめ、出家し、自性院の住職となりました。このため、自性院を竹之丞寺といいます。享保三年(1718)年十月十日、六十五歳で亡くなりました。自性院には、初代から十二代までの竹之丞代々の墓があります。

(3) 亀戸浅間神社 亀戸9丁目15番

- ① **創立由来** 大永七(1527)年創立で、社殿は富士講の富士山の上に建立されています。江戸時代、山岳信仰が盛んとなり、各地に小型の富士山をつくり、浅間神社をまつりましたが、江東区内には現在2ヶ所しかのこっていないうちのひとつです。毎年6月下旬、大祓の巨大茅の輪くぐりの時には沢山の人が集まります。
- ② **たのみの辞の碑** 昔、この付近を**筭洲**、**高貝洲**、**筭塚**などと称しました。日本武尊の妃、**橘姫**の**筭**が流れて、塚に納めたという伝説があります。この**筭洲**の由来を記した碑が明治33年6月に建立されました。

せんげんじんじやどうひょうなど
③ 浅間神社道標等

- 道標 享和元（1801）年十月、地藏講中が奉納した。
- 石段 宝曆三（1753）年二月奉納された石階段があります。
- 法華経塔 元禄十四（1701）年九月二十四日奉納されました。

せんげんじんじやきんせきぶん
④ 浅間神社金石文

- 正観音石塔 安永八（1779）年十二月講中が造立しました。
- 石灯笼一对 文政八（1825）年6月建立しました。
- 庚申塔 元禄十一（1698）年八月四日造立しました。
- 石水盤 寛政七（1795）年六月一日奉納の石手水鉢です。
- 石鳥居 寛政十一（1799）年六月建立されました。

せんげんじんじやせきぶつぐん
⑤ 浅間神社石仏群

てんめいに ねんしがつ ほうれきに ねんじゅうがつぞうりゅう いしじぞう
天明二（1782）年四月、宝曆二（1752）年十月造立の石地藏、

たせきぶつ
その他石仏があります。

さかさい かめいどきゅうちようめさかさいばし
(4) 逆井の渡し 亀戸九丁目逆井橋

えどじだい さかさい わた
江戸時代に逆井の渡しがありました。

あんどうひろしげ めいしょ えどひゃっけい めいさく
安藤広重の名所江戸百景の名作として

この逆井の渡しが描かれています。

めいじ もくきょう
明治31年2月木橋がかけられて、

わた はいし
渡しは廃止されました。



参考文献・資料 江東区史（江東区）・文化財と旧跡（江東区）・江東区史跡あちこち（江東区）江東区のおゆみ（江東区）・おはなし江東区伝統工芸を受け継ぐ人々（江東区教育委員会）・おはなし江東区川と橋の話（江東区教育委員会）・おはなし江東区江東区のみち（江東区教育委員会）・亀戸単語帳マップ・かめたん（江東区文化コミュニティ財団・亀戸文化センター）・江東辞典（史跡編）・ウィキペディアフリー百科辞典

写真提供 国立国会図書館・国立博物館・亀戸観光協会・江東区広報公聴課
江東区文化コミュニティ財団 深川江戸資料館

歩け歩け大会 亀戸史跡めぐり

●令和2年1月11日（土） 雨天決行

●コース案内（予定） ※通常ルートは番号順ですが順路が変更になる場合があります。

亀戸駅前公園（集合地） （スタート時刻 9：10発） →

①亀戸銭座跡 → ②日清紡績創業旧跡 → ③水神森の碑 →

④常光寺(六阿弥陀) → ⑤石井神社旧跡 → ⑥宝蓮寺(歌川国輝の墓) →

⑦東覚寺 → ⑧香取神社 → ⑨普門院 →

⑩光明寺 → ⑪天祖神社 → ⑫龍眼寺 →

⑬亀戸天神社（ゴール） （解散予定時刻 12：30）

